学校番号	１０７

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	器楽 （ピアノ独奏）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	各専攻による教材						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

楽曲について分析・理解した内容をもとに、それらを的確に表現するための技術を身に付けましょう。自分の音や人の演奏をよく聴き、素直な心で音楽と向き合い、音楽を感じることで豊かな表現力を身に付けてください。鍵盤楽器の魅力を感じたり、また関連をもたせながら自らの楽曲への思いを表現しましょう。
教材、指導内容はおよその目安で、各自の個性、能力等によって異なります。

2　学習の到達目標

ピアノに関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽曲の表現内容について、曲想、音楽の構造などに加え、それら相互の関わりや文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。　【知識】 ・自分の表現意図をもって創造的に器楽表現するために必要な技能(曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能)を身に付けて、器楽で表している。　【技能】	楽器の特性や、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、他楽器や声部との関わり合いをどのように表現するかなどについて考えたり、楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた演奏の仕方など、音楽性豊かな表現について考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、楽器の種類や特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4～7月	独奏	ロマン派作曲家の楽曲演奏 ・ブラームス ・ショパン ・シューベルト ・メンデルスゾーン ・リスト ・シューマン	a:【知】曲想、音楽の構造を理解していることに加え、それら相互の関わりやそれらを表現するためにどのような技能が必要なのか、また文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解している。 【技】創造的に自分の表現意図を表すために、曲にふさわしい奏法、身体やペダルの使い方などの演奏技能や、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 b:ピアノの特性について考えたり、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように演奏するか、また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた演奏の仕方などについて考え、どのように演奏するかについて明確な表現意図をもっている。 c:様々な時代や様式といった多様な音楽について、主体的に学習し、楽器の種類や特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験 振り返りシート
8月～11月		フランスの作曲家を含む近代以降のの作曲家の楽曲演奏		ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験 振り返りシート
12月～2月		任意の練習曲の演奏		ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験	ワークシート 実技試験 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度